

## ウェブサイト数から見た日本の昔話のポピュラリティ

向 田 久美子

### Popularity of Japanese folktales by the number of websites

Kumiko MUKAIDA

本研究では、日本の昔話のポピュラリティについて探るため、大学生の認知度が高い19作品（「桃太郎」ほか）と低い18作品（「鳥のみ爺」ほか）について、2度にわたってインターネットで検索を行い、ウェブサイトのヒット数を比較した。その結果、検索の時期にかかわらず、大学生の認知度の高い作品群は、低い作品群に比べ、ウェブサイト数が多く、総じてポピュラリティが高いことが示された。

キーワード：昔話、ポピュラリティ、ウェブサイト

#### 問題

筆者はこれまで、日本人大学生を対象としたアンケート調査を実施し、日本や西欧の昔話の認知度について検討してきた（向田, 2012; 2013）。その結果、日本の昔話では、五大昔話（『大辞泉 第二版』小学館）と呼ばれる「桃太郎」、「かちかち山」、「さるかに合戦」、「舌切りすずめ」、「花咲かじいさん」のほか、「浦島太郎」、「つる女房」、「かさじぞう」、「一寸法師」、「こぶとりじいさん」などがよく知られていることがわかった。西欧の昔話（グリム童話）では、「白雪姫」、「赤ずきん」、「おおかみと七ひきの子やぎ」、「シンデレラ」、「ヘンゼルとグレーテル」、「ブレーメンの音楽隊」、「いばら姫」、「ラプンツェル」、「かえるの王さま」などがよく知られていた。

本研究では、先行研究（Norenzayan, Atran, Faulkner & Schaller, 2006）に倣い、上述した日本の昔話のポピュラリティについて、別の手法、すなわちインターネット上のウェブサイト数の比較という手法を用いて、再度検討を行うことにした。Norenzayan et al. (2006) では、西欧の昔話（グリム童話）のうち、ポピュラリティの高い作品を抽出するため、2段階による検討を行っている。まず、1857年版のグリム童話の英訳（Manheim, 1857/1977）に含まれている200作品に対して、検索エンジンGoogle

を用いて、ドイツ語と英語のそれぞれで原題と「グリム」をキーワードとして入力し（例：“Hefty Hans” Grimm）、ヒットしたウェブサイトの数を調べている。英語による検索結果とドイツ語による検索結果（各200回）の相関は高く、英独それぞれの上位20作品のうち、10作品が共通していた。これらの30作品のうち、まぎらわしい原題の9作品（“The Moon”など、一般的な単語1〜2語から成っているもの）を除き、最終的に21作品を“culturally successful folktales”として選出した。一方、あまり人気のない作品としては、英独それぞれの検索で50位以下となった126作品から、上位群と同等の長さをもつ作品をランダムに21選出している。その後、上位21作品と下位21作品に対して、カナダ人大学生65名を対象に質問紙調査を行ったところ、ウェブサイトの多い作品群は、少ない作品群よりも高く認知されていることがわかった。このような結果は、インターネットによる検索結果が、昔話のポピュラリティの指標として一定の妥当性をもつことを示すものである。

本研究では、Norenzayan et al. (2006) と順序は逆になるものの、向田（2013）で明らかにした大学生の認知度が、インターネット上のウェブサイト数と連動しているかどうかを検討し、日本の昔話の中でポピュラリティの高い作品群を明らかにすることを

目的とする。ウェブサイト数の検討については、一度だけの調査では安定性がないと考えられたことから、半年の期間を経て、二度実施することにした。

## 方法

1) 調査対象作品……昔話研究者が編集した網羅的な2つのアンソロジー（『子どもに語る 日本の昔話』〔稲田和子・筒井悦子著、こぐま社〕、『日本名作絵本』〔小澤俊夫・藤井いづみ文、TBSブリタニカ〕）に掲載されている日本の昔話81作品について、大学生を対象に質問紙調査を行い（向田、2013）、認知度が平均（ $M = 1.41$ ,  $SD = 0.17$ ）を上回った19作品を上位群とした（「桃太郎」、「浦島太郎」ほか、詳細は表1参照）。下位群については、上位群とほぼ同じ数になるよう、認知度が低い作品から順に18作品を取り上げた（「犬と猫とうろこ玉」、「みそ買い橋」ほか、詳細は表2参照）。なお、上位群に「つる女房」として取り上げられている作品については、「鶴の恩返し」としても知

られていることから、同じ作品を異なるタイトルで2回検索することにした。

2) 調査時期……1回目の検索は2013年5月10日に、2回目の検索は2013年11月10日に実施した。

3) 調査方法……インターネットの検索エンジン Googleを用い、二重引用符で括った原題、「日本」、「昔話」の3語をキーワードとして入力し（例：「桃太郎」日本 昔話）、そのヒット数を調べた。

## 結果と考察

検索によりヒットしたウェブサイト数について、上位群の結果を表1に、下位群の結果を表2に示す。最もウェブサイト数が多くなっていたのは、検索の時期にかかわらず、「さるかに合戦」、次いで「桃太郎」であった（表1）。逆に最も少なくなっていたのが、「ゆめの橋」、次いで「運のよいなまけ者」であった（表2）。これらの数値に安定性があるかどうかを調べるため、全37作品（検索回数は38回）の5月の検索結果と11月の検索結果の相関係数を計算した

表1 上位19作品のウェブサイト数

	2013年5月10日検索	2013年11月10日検索	認知度 <sup>注1</sup>	
桃太郎	117,000	142,000	2.97	.25
浦島太郎	63,400	57,200	2.93	.32
さるかに合戦	287,000	192,000	2.82	.44
つる女房	999	2,860	2.82	.55
（鶴の恩返し） <sup>注2</sup>	18,500	17,660	—	—
花咲かじいさん	13,400	5,730	2.81	.44
かさじぞう	13,600	13,000	2.71	.10
かちかち山	19,300	16,700	2.65	.56
一寸法師	39,600	37,200	2.62	.58
こぶとりじいさん	13,300	11,500	2.61	.57
舌切り雀	13,300	13,300	2.47	.68
雪女	24,600	20,100	2.02	.77
うば捨て山	15,100	22,800	1.94	.81
わらしべ長者	20,400	18,000	1.88	.80
文福茶釜	1,940	1,800	1.80	.76
干支のはじまり	2,600	4,140	1.72	.88
三枚のお札	19,200	14,400	1.66	.83
さる地蔵	208	7,570	1.52	.65
和尚さんと小僧	7,490	8,770	1.45	.66
はなたれ小僧	1,780	2,260	1.43	.59
平均	34,636	30,450	2.25	.56

注1：3段階評定で、数値が大きいほど認知度が高いことを示す（結果は向田（2013）より引用）。

注2：「つる女房」は「鶴の恩返し」として知られている可能性が高いことから、タイトルを変えて再検索をした。

表2 下位18作品のウェブサイト数

	2013年5月10日検索	2013年11月10日検索	認知度	
鳥のみ爺	123	62	1.05	.25
歌い骸骨	104	124	1.05	.28
さとの化けもの	144	272	1.05	.28
なら梨とり	3,710	5,770	1.05	.31
仁王と賀王	94	171	1.04	.24
おおみそかの火	963	777	1.04	.24
額に柿の木	499	274	1.04	.24
みそ買い橋	381	102	1.04	.23
運のよいなまけ者	42	7	1.04	.22
かみそりぎつね	796	539	1.03	.23
宝化け物	545	368	1.03	.20
ゆめの橋	16	8	1.02	.21
団子むこ	148	86	1.02	.18
炭焼き長者	923	1,590	1.02	.18
旅学問	202	302	1.02	.18
犬と猫とうろこ玉	381	102	1.02	.18
運定めの話	41	56	1.02	.18
おんば皮	77	17	1.01	.16
平均	511	590	1.03	.01

注1：3段階評定で、数値が大きいほど認知度が高いことを示す（結果は向田（2013）より引用）。

ところ、 $r = .97$  ( $p < .01$ ) と非常に高い正の相関が得られた。また、上位群においても下位群においても、5月と11月の検索結果の平均値には有意な差は認められなかったことから（上位群： $t(19) = 0.83, n.s.$ 、下位群： $t(17) = 0.63, n.s.$ ）、個々の昔話に関連するウェブサイトの数は、比較的安定しているとみなすことができるだろう。

次に、上位群と下位群の比較を行った。5月の検索結果に関しては、上位群の平均が  $M = 34635.85$  ( $SD = 65202.00$ )、下位群の平均が  $M = 510.50$  ( $SD = 855.78$ ) となり、上位群のほうが下位群よりも有意にウェブサイト数が多くなっていた ( $t(36) = 2.22, p < .01$ )。11月の検索結果についても、上位群の平均が  $M = 30449.50$  ( $SD = 49131.98$ )、下位群の平均が  $M = 590.39$  ( $SD = 1348.14$ ) となり、上位群のほうが有意にウェブサイト数が多くなっていた ( $t(36) = 2.57, p < .01$ )。また、上位群の認知度の平均値 ( $M = 2.25, SD = 0.56$ ) と下位群の認知度の平均値 ( $M = 1.03, SD = 0.01$ ) にも有意差が認められ、上位群の認知度のほうが高くなっていた ( $t(35) = 9.29, p < .01$ )。これらの結果から言えるのは、本研究における昔話の

上位群（19作品）は下位群（18作品）よりも、ウェブサイト数が多く、大学生にも高く認知されているということである。

最後に、認知度とウェブサイト数との関連について調べたところ、5月の検索結果とは  $r = .52$  ( $p < .01$ )、11月の検索結果とは  $r = .57$  ( $p < .01$ ) と比較的高い正の相関が得られた。これらの結果は、大学生によく認知されている作品ほど、インターネット上のウェブサイト数が多いことを示している。本研究においても、昔話のポピュラリティを図る指標として、ウェブサイト数が一定の機能を果たしていることが示されたと言えるだろう。

## まとめ

本研究では、日本の昔話のポピュラリティについて探るため、大学生の認知度が高い19作品と低い18作品について、2度にわたってインターネットで検索を行い、ウェブサイトのヒット数を比較した。その結果、検索の時期にかかわらず、大学生の認知度の高い作品については、ウェブサイトの数も多いことが示された。このような結果から、今回上位群と

して取り上げた19作品（「桃太郎」、「浦島太郎」、「さるかに合戦」、「つる女房（鶴の恩返し）」、「花咲かじいさん」、「かさじぞう」、「かちかち山」、「一寸法師」、「こぶとりじいさん」、「舌切り雀」、「雪女」、「うば捨て山」、「わらしべ長者」、「文福茶釜」、「干支のはじまり」、「三枚のお札」、「さる地蔵」、「和尚さんと小僧」、「はなたれ小僧」）は、日本の昔話の中でポピュラリティの高い作品群であると言えるだろう。今後はこの結果をもとに、日欧の代表的な昔話の内容分析を行い、スクリプトの異同について検討を行う予定である。

\* 本研究は平成23年度科学研究費基盤研究（C）（課題番号22530689）の助成を受けて行われた。

## 引用文献

- 稲田和子・筒井悦子（1995）子どもに語る 日本の昔話 こぐま社
- Manheim, R. (1977) *Grimm's tales for young and old: The complete stories*. R. Manheim (Trans.). Garden City, NY: Doubleday. (Original work published 1857)
- 松村明（監修）（2012）大辞泉 第二版 小学館
- 向田久美子（2012）日欧の昔話の認知度（1）—短期大学生の学年別検討— 駒沢女子短期大学研究紀要, 45, 39-47.
- 向田久美子（2013）日欧の昔話の認知度（2）—専攻別の検討— 駒沢女子短期大学研究紀要, 45, 33-40.
- Norenzayan, A., Atran, S., Faulkner, J., & Schaller, M. (2006) Memory and mystery: The cultural selection of minimally counterintuitive narratives. *Cognitive Science*, 531-553.
- 小澤俊夫・藤井いづみ（1993）日本名作絵本 TBSブリタニカ